

誇りをもって酪農に生きる



ふくしま はじめ人 はじめ人びと

File No.07

株式会社フェリスラテ 代表取締役

たなか かずまさ
田中 一正さん

<プロフィール>

東京生まれ。北海道で農業を学び、栃木県の牧場に勤務後、独立を決意。飯館村の自然や環境にほれ込んで、平成13年に移住。移住10年目となる平成23年に被災し、平成24年に震災で福島市へ避難。翌年に共同型酪農経営「ミネロファーム」牧場運営担当理事を務める。今年1月に自ら会社を設立し、代表に就任。

酪農家としての第一歩 そして苦悩

「いつか自分で牧場を運営したいと思いついて、酪農に適した場所を探していたんです。福島県から飯館村を紹介してもらって移住を決め、家族で協力しながら順調に運営していました。震災が起きるまでは……」と当時を振り返る田中さん。

「避難指示を受けて地区の酪農家たちといるのを考えて、飼育してきた牛たちを処分することに決めました。半分くらいは別の牧場へ引き渡すこともできたんですが……つらかったです。でも、牛をつないだままにしたり、放牧したままにした酪農家もいた中、牛たちの最後を見届けられたことは、畜産農家としても人としても責任を全うできたと思っています」

酪農で福島を 活気づけたい

避難中は、山形の牧場で働きながら、酪農家としての再出発を考えていた田中さん。そんな中、NPO法人福島農業復興ネットワークとの出会いがきっかけで

福島市松川町にある共同型酪農経営ミネロファームの牧場運営担当理事として参加するようになりまし。

そこで牧場の基盤づくりから地域・大学と協力しての酪農教育などに一から関わることで、飯館での家族経営とは違う、人材育成の重要性などを学び、経営者としての自信が生まれたそうです。

「今年、会社を設立しました。酪農の可能性への挑戦と、福島で牧場経営をすることの必要性を若い世代に知ってもらいたいと思っています。現在、福島市内に建設中ですが、完成すれば東北で3本の指に入る規模になる予定です。酪農を目指す若者たちの受け皿になりたいですし、独立までのバックアップも行っていきたいです。酪農を再開して5年目に入りますが、福島の実業

と経済を盛り立てる手助けとなるためにも、未来に向かって、強い意志と意地を持って頑張っていけます」



一時は諦めた酪農を再開